



営農NEWS



夏まきニンジン栽培において発生する主な病害虫の防除

本県のニンジン栽培は、7月中～下旬頃に播種し、秋冬季に収穫する夏まきニンジンが主要な作型になっています。ニンジン栽培では、ネコブやネグサレなどのセンチュウ類による根部被害の発生が常に懸念されますので、長期の輪作を行っていない圃場では、事前に殺センチュウ剤を利用した土壌消毒や対抗植物栽培の導入などが必要になります。

夏まきニンジンの作型では、主に9～10月にかけて黒葉枯病や軟腐病など、また、アブラムシ類、キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウや「シャクトリムシ」などの病害虫が多発生することがあり、生育あるいは根部肥大の不良や軟腐病などは商品価値が無くなって、大きな減収を招くことがあります。

黒葉枯病はほぼ例年発生がみられますが、特に、晴天と曇雨天が繰り返し経過する年には発病、被害が激しくなる傾向があります。軟腐病は、管理作業等での株の傷口や害虫の食害痕などから病原菌が侵入しますので、降雨が続く時や台風の後などには薬剤散布が必要になります。

アブラムシ類は、秋季が温暖に経過したときに寄生が多くなり、新芽や芯葉に寄生すると展開葉の奇形や萎縮をおこします。また、各種のウイルスを媒介するため、発病すると商品価値が低下しますので、十分注意が必要となります。

キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウや「シャクトリムシ」などチョウ目害虫は、食害が激しいと生育や根部肥大の不良を招き、甚だしい場合は商品価値が無くなります。

これらの病害虫発生に十分に注意し、早期の発見と予防や適切な薬剤防除に心がけてください。

【防除のポイント】

- 1 黒葉枯病は、晴天と曇雨天が繰り返し経過するときに発病拡大しやすい傾向ですので、早めの薬剤散布に努めてください。なお、密植や軟弱徒長、肥切れ等は、発生を助長しますので、注意が必要です。
- 2 アブラムシ類やウイルス病の防除として、圃場周辺の雑草がアブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源となる可能性があるため、常に適切に除草し、圃場衛生に努めましょう。
- 3 キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウや「シャクトリムシ」などチョウ目害虫は、発生を認めたら幼虫が小さいうちに早めに防除を行いましょう。
- 4 薬剤防除に際しては下記を参考に、耐性菌や抵抗性害虫の出現を回避するため、同系統薬剤の連続散布を避けて、ローテーション防除に努めましょう。

表1 ニンジン主要病害の主な防除薬剤（平成26年9月5日現在）

薬剤名	黒葉枯病	うどんこ病	軟腐病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ダコニール 1000	○			1,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
ベルコートフロアブル	○	○		1,000 倍	収穫 14 日前まで / 5 回以内
ロブラール水和剤	○			1,000～1,500 倍	収穫 14 日前まで / 4 回以内
カスミンボルドー	○		○	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
スターナ水和剤			○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
Zボルドー	○		○	500～800 倍 500 倍	— / —

表2 ニンジン主要害虫の主な防除薬剤（平成26年9月5日現在）

薬剤名	アブラムシ類	キアゲハ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
マラソン乳剤	○	○			2,000～3,000 倍	収穫 14 日前まで / 4 回以内
ジメトエート乳剤	○				1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	○				2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
アグロスリン乳剤			○		2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
コテツフロアブル			○		2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ラービフロアブル				○	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
プレオフロアブル				○	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040